

令和4年度 第78回冬休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

主催 協賛 後援

岩手県良書推進協議会  
岩手県学校生活協同組合  
岩手県小学校校長会  
岩手県学校図書館協議会  
岩手県PTA連合会



目次

- 一 祝辞
- 二 入賞者名簿
- 三 入賞者作品
- 四 審査を終えて
- 五 応募者名簿

表彰式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読  
栗石町立七ツ森小学校 四年  
細谷耀月
- 七 感想発表  
盛岡市立桜城小学校 六年  
五日市紘登
- 八 閉式のことば

審査員

大石	善弘	先生
近藤	澄江	先生
畠山	明美	先生
藤村	由美	先生
田代	五月	先生
大淵	奈実	先生
永井	臣之介	先生
杉浦	美香子	先生
谷藤	里佳	先生

一冊の本との出会いを大切に

岩手県学校図書館協議会 会長 照井 大道

(盛岡市立向中野小学校長)

岩手県良書推薦協議会の第七十八回冬休み読書感想文コンクールに入賞された皆さん、おめでとうございます。皆さんは今回、素晴らしい本と出会い、その思いや感動を読書感想文に表現しました。タイトルに惹かれたり表紙のデザインが気に入ったり、あるいは先生や親、友達に勧められたりなど、本との出会いのきっかけは様々だと思いますが、今回コンクールの推薦図書三十冊の中から手に取った一冊によって、現実では体験できないような場面に出会い、その中で喜怒哀楽やわくわく感、ほっとしたり励まされたりなど、様々な気持ちを味わったことでしょう。一冊の本との出会いによって、皆さんの心が少しずつ豊かに耕されていく様子が目に浮かぶようです。

さて、子どものころから読書をする、どんな良いことがあるのでしょうか。まず、集中力が付き、大人になっても忍耐力が養われるそうです。本を読むことは、文字を追いつつ、集中して読み続けながら内容を理解することができないので、マンガやテレビと比べてかなりの集中力が求められるためです。また、文字を読み進めながら、情景を想像したり、登場人物の心情を理解したりすることを通して、言葉の力が高まり、人の話を聞けるようになり、他人の気持ちを理解できる人になるそうです。さらに、読書習慣がある子ども

は、正しい言葉遣いができるようになり、言語能力が付くとも言われています。

脳を研究している川島隆太先生によると、読書は脳を活性化させて、脳の発達や成長が促進されるそうです。また、本を読んで言葉をたくさん覚えると、脳にとっても良い影響を与え創造性を豊かにしてくれるそうです。読書は大人になってからでもできますが、子どものうちから読書をする、こうしたたくさんさんのメリットが得られるのです。

大和証券という会社の元会長である山内隆博さんは、ご自身の生き方の考えについてこうおっしゃっています。「人生で一番大切なことは感動すること。」そして、その「感動」するための条件の一つとして、「絶えず心に栄養を与えること。例えば、美しい絵をみるとか、いい本を読むとかして教養を積んでいないと感動は生まれません。」と言っています。読書をすればするほどその人の心が豊かになり、心が豊かになるほど感動する機会が増え、日々感動のある素晴らしい人生を送ることができると語っているのだと思います。

読書が人の一生において果たす役割はきわめて大きく、特にも子どもにとつての読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。皆さんには、これからも本との出会いを大切に、読書によって心の栄養をたくさんとり、より多くの感動がでる人、人の気持ちがわかる人、自分の行動や考え方に活かせる人になってほしいと願っています。

令和4年度 第78回

冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

『は図書名

〈最優秀賞〉

かつことよりもたいせつなこと 『ようかい先生とぼくのひみつ』

盛岡市立山岸小学校 一年 矢羽々 幸星

「がんばる」をつづけること 『ようかい先生とぼくのひみつ』

北上市立二子小学校 二年 細井 優

次郎と気仙大工、それからわたし 『おれ、気仙大工になる！』

宮古市立山口小学校 三年 箱石 好南

仲良く元気に正直に 『タスキの土居くん』

雫石町立七ツ森小学校 四年 細谷 耀月

「狐霊の檻」を読んで 『狐霊の檻』

盛岡白百合学園小学校 五年 佐々木 千紗

アオアシを読んで 『小説 アオアシ①②』

盛岡市立桜城小学校 六年 五日市 紘登

〈岩手県小学校長会長賞〉

わたしのほうせきばこ 『まほうのほうせきばこ』

宮古市立山口小学校 一年 梅津 怜奈

努力って、かつこいい 『一撃をねらえ！』

雫石町立七ツ森小学校 四年 岩井 英介

なりたい自分になるために 『君らしく働くミライへ』

宮古市立田老第一小学校 六年 西川 結

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

やさしい、やさしいハリネズミ 『はりねずみのノート屋さん』

花巻市立八幡小学校 二年 菅原 桜子

みんな同じ人間だから 『ハッピー・クローバー！』

滝沢市立滝沢第二小学校 三年 八幡航 颯

弱い気持ちに負けない強い自分に 『狐霊の檻』

盛岡市立山岸小学校 五年 矢羽々 愛星

〈岩手県PTA連合会長賞〉

まほうのほうせきばこを読んで 『まほうのほうせきばこ』

盛岡市立高松小学校 二年 中田 碧葉

多様性を教えてくれたハッピークローバー 『ハッピークローバー!』

岩手大学教育学部附属小学校 四年 北田 啓人

平和な明日をつくる〜他者理解 『リトル・ゾンビガール』

宮古市立田老第一小学校 六年 吉水 詩織

〈優秀賞〉

やさしいツインタのノートやさん 『はりねずみのノート屋さん』

盛岡市立仙北小学校 一年 相原 集

がんばりつづけること 『ようかい先生とぼくのひみつ』

盛岡市立河北小学校 二年 下川原 蓮

しょうじきもののタヌキ 『タヌキの土居くん』

北上市立黒沢尻東小学校 三年 菅原 大馳

一人一人のよいところ 『ハッピークローバー!』

雫石町立七ツ森小学校 四年 羽上 希愛

二人の勇氣 『ぼくは勇者をたすけたい』

宮古市立山口小学校 五年 小坂 芽生

「狐霊の檻」を読んで 『狐霊の檻』

滝沢市立滝沢小学校 六年 関 紅羽



## 〈入選〉

サイクリングさいこう！

【まよなかのサイクリング】

盛岡市立河北小学校

一年 三田地 蒼 梧

えがおがかわいいクオッカ

【みてみて！クオッカ】

滝沢市立滝沢第二小学校

二年 沼 舘 陸

幸せを毎日つづけるには

【バズ・ライトイヤー】

盛岡市立城南小学校

三年 三 野 莉 央

感じ方は人それぞれ

【昔話法廷 season2】

盛岡市立北厨川小学校

四年 岡 本 うらら

【正しい判決】とは？

【昔話法廷 season2】

一戸町立奥中山小学校

六年 猪 又 日 葵

## 〈学校賞〉

栗石町立七ツ森小学校

## 〈学級賞〉

栗石町立七ツ森小学校

4年

宮古市立田老第一小学校

6年

〈佳作〉

いろいろな気持ち

『まほうのほうせきばこ』

盛岡市立山岸小学校

一年 及川陽葵

まよなかのサイクリングを読んで 『まよなかのサイクリング』

盛岡市立高松小学校

二年 菊池咲

人でつながるほうせきばこ

『まほうのほうせきばこ』

滝沢市立滝沢小学校

二年 藤波里桃

言葉のほう力

『昔話法廷 season2』

盛岡市立向中野小学校

三年 松本果依

自分との戦い

『一撃をねらえ!』

雫石町立七ツ森小学校

四年 佐渡空翔

本当の友情とは

『学園ミステリー』

宮古市立田老第一小学校

六年 熊岡大翔

かつことよりもたいせつなこと

盛岡市立山岸小学校 一年

やはば こうせい

ひみつといわれると、しりたくなってしまふし、だれかにいいなくなつてしまふかもしれません。ようかい先生には、いったいどんなひみつがあるのだろうかとうワクワクした気もちでこの本をえらびました。

ようかい先生は、じつはスーパーテングというすごい力をもつた先生でした。ケイタはそのひみつをしつてしまつたのです。そこで、ひみつをだれにもいわないかわりに、うんどうかいであしのはやクラタクくんにかたせてほしいとおねがいしました。先生はあしのはやくなる花のたねをくれてにわにうえました。アシハヤの花は、まいあさ一回だけ花がさき、その花を見るだけであしがはやくなるといふものでした。学校にちこくしてしまふかもしれないじかに花がさくのでケイタはいつもはしつて学校にいきました。と中、もうやめようかなとおもつたりもしたけど空から、先生がおうえんしてくれただけでさいごまでやりとげることができました。だけどうんどうかいではクラタクんにまけてしまいます。

ぼくは、三さいから水えいをやっています。れんしゅう

がつかなくてやめたいとおもうこともありますが、いつもおかあさんがおうえんしてくれるのががんばれます。おかあさんはいつも「じぶんがぜん力でがんばったらまけてもいいんだよ。」といっています。つらいときにふんばる、だれにかつことよりもど力がいせつということをおしえてくれます。先生もアシハヤをただ見るだけではなく学校にちこくしそうなじかに花がさいて、ケイタがまいにちはしつていくことではしるれんしゅうをさせていたんだとおもいます。そしてさいごまでじぶんの力でやりとげること、かつことよりもたいせつなことに気づかせてくれたんだとおもいました。

この本をよんで、ぼくも水えいのれんしゅうがつかなくてもがんばろうとおもいました。

〈講評〉

〔図書名『ようかい先生とぼくのひみつ』〕

「ひみつといわれると……」の書き出し、すてきですね。題名「ようかい先生とぼくのひみつ」に着目しているからこそだと感じました。手に取るきっかけが自然な形で表現されています。そして何より、幸星さんがテンテン先生とお母さんの似ているところを上手に織り交ぜながら感想を書いている点が見事です。どちらも、苦しいときに応援してくれる存在なのです。その上で、自分でやりとげる大切さをこのお話から感じ取り、つらくても水泳の練習をがんばろうと自分の決意を固めている点がすばらしいです。

わたしたちも光星さんの応援団ですよ。



「がんばる」をつづけること

北上市立二子小学校 二年

細いゆう

ぼくは本のしょうかい文を読んで頭にズコーンと何かが当たったようなおどろきで今すぐようかい先生の正体を知りたくなつた。ぼくはようかい先生をわるいことをたくらむこわいかいぶつだと思つた。

しゅ人公はテングであるテンテン先生の大切なぼうしをひろい、かえすかわりにライバルにかつたためにときよう走で一いにしてほしいとおねがいする。しゅ人公はテンテン先生の力をつかい楽に走ろうとした。しかし、テンテン先生にいろいろなしゆくぐだいを出された。けっかは、ときよう走で二ちやくだつた。

テンテン先生の正体が人間に知られると、人間がその力にたより、人間のせかいでしゆくぎようができなくなるので、ひみつなのだ。

しゅ人公の気もちとしゆくぐだいを楽しておわれようとするぶ分が同じだと思つた。がんばりつづけることはめんどうだ。でも、ぼくは、九九をおぼえきることや長い休みに出るしゆくぐだいをおわらせるまではがんばつた。本の中では、ときよう走で走るれんしゆうだつたがぼくは九九を

何回もれんしゆうしてすべて言えるようになった。

「ボロボロだつたんだ、クラタクんのシューズ。きつとぼくよりたくさんれんしゆうしたんじやないかな。だから。クラタクんが一ちやくになつたんだよ。」

テンテン先生はにっこりわらつて

「そう思えたケイタも一ちやくと同じくらいりつぱだぞ。」この文にぼくはかんどうしてなみだが出た。テンテン先生の正体は、テングだつた。テンテン先生がわるものじゃなくてよかつた。テンテン先生の本名は空とび天助といい、助けるの文字が入っている。天助先生に入っている字が同じで目ひようにむかつてがんばつていことがかっこいいとかんじた。天助先生のようにになりたい。

（図書名『ようかい先生とぼくのひみつ』）

〈講評〉

優さんは、お話からとても素敵なメッセージを受け取り、表現で書いていますね。また、感想文のつくりにも巧みさを感じました。まずは書き出します。本の紹介文に着目していること、さらにそこから感じたことが書かれており、本を選んだときの様子がありありと浮かびます。まさかこの書き出しがまともにつながるとは誰が予想できたでしょう。心に響いた会話文を抜き出したあと、登場人物の印象がはじめと変わったことを書いていますね。人物の名前（天助）にまで着目して、自分の感想を効果的に表現できている優さん、見事です。

次郎と気仙大工、それからわたし

宮古市立山口小学校 三年

箱石 好南

りっぱなかわら屋根で、とのさまやおひめさまが住んでいそうなおやしき。でも、これはふつうの人たちが住むお家。これは気仙大工とよばれる大工さんがたてたもの。今も、気仙地いきには気仙大工がたてた家が多くたつていて、ところがあるそう。わたしは気仙大工について調べてみた。すると、ふつうの大工とはちがうところがあることが分かった。気仙大工はたくさんのぎじゅつをもつていて、本当ならべつのしょく人がやる仕事も一人でできてしまうのだそう。だから、次郎の父ちゃんも東京で家をたてるだけでなく、お寺や神社もたてる仕事ができるんだと思った。

次郎は父ちゃんみたいな気仙大工になりたいと言っていた。それはさいしょから考えていたことではない。でもなぜ、そんな思いになったんだらう。わたしはもう一度、読み返しながら、その答えをさがしてみた。

すると、見えてきたのは次郎の兄ちゃんのかつこよさ。大工のしゅぎょうをしている兄ちゃんは、一本の竹をあつという間にスキーに作り上げてしまった。兄ちゃんの作ってくれた竹スキーはとてもすべりやすそう。きつと一人一人の体や足に合わせて作ったスキーだから、売っているものよりもすべりやすいんだと思う。そのしょうこにみんなの顔はキラキラのえがお。丘の上から見えた海よりかがやいていたんじゃないかと思う。

それからはたらく人のすがたを近くで見たこと。雨戸を直している父ちゃんは、帰ってきたばかりでつかれているはずなのに、ニコ

ニコ顔ではたらいっている。ゆうじの父ちゃんもしつこいぬりながら楽しそうな様子だった。み屋さんもえがおで重いたたみをついでいる。決して楽しやないはずなのにえがおでいられるのは、自分たちの仕事の一つ一つが形になっていくのがうれいんじゃないかと思った。

そして何より、出来上がったお家に集まった人たちがみんな幸せそうにしているのを見たとき、次郎は「父ちゃんがたてた家は、みんなの安心を守るし、楽しさもつくるし、人どうしもつなぐんだ。気仙大工の仕事ってすごい。かっこいい。」と気付いたことが大きいと思う。ものづくりをする人は使う人の幸せを思いながら仕事をするからえがおになるし、苦しい仕事もがんばれるんだと思った。

わたしは大人になったとき、何になつていよう。次郎がしたいなりたいものはまだはつきりは見えていない。でも、次郎がしていたみたいに色々が人とふれあいながら、自分がしてみたいことをじっくりさがしていきたくと思う。きつとわたしにしかできないこと、わたしだからできることがあるはず。わたしがはたらくことで、目の前の人、または会う事もないほど速くに住む人が、しあわせになれる時間をつくること、できる未来をむかえられるよう今をがんばっていきたく。

(図書名「おれ、気仙大工になる！」)

〈講評〉

好南さんは、一度読んだ後に、気仙大工について調べたり、「どうしてだろう。」と思ったことの答えを見つげるためにもう一度じっくりと読み直したりしています。好南さんが一冊の本をきっかけにして自分の世界を広げたり、考えを深めたりしていることが伝わってきて、きつと読書をするこどや本を通して考えることが好きなのだろうと感じ、うれしくなりました。いつか、次郎のように、好南さんにびつたりの夢を見つけてください。

## 仲良く元気に正直に

平石町立七ツ森小学校 四年

細谷 耀月

元気に笑顔で手を挙げている土居くん。でも、土居くんってタヌキなの？

ほくはこの表紙の絵がとても不思議に思っただけ早く読んでみたくなり、わくわくして、本を手にとった。

読み進めていくたびに、ほくはずっと笑っていた。それぐらい楽しくて、心が温かくなる物語だったからだ。

新学期が始まったばかりの四月の最初の月曜日、三年生になった土居くんは、なんとタヌキになっていた。土居くんがタヌキになったのではなく、もともとタヌキだったというのだから、おどろきだ。そして、タヌキにもどった理由がとてもおもしろい。

「仲良く、元気に、正直に！」

土居くんは、みんなで決めたこの目標のために、正直になろうとしていたのだ。ほくはそこまで正直にならなくても思ったが、土居くんにとっては、重要な問題だったのかもしれない。

タヌキにもどった土居くんは、児童会役員に立候補するなど、とても積極的だし、体育の時間には、おもしろい体操をして友達を笑わせている。タヌキにもどってから、土居くんは、人間だった時よりもパワーアップしているようだ。やっぱり、「正直」大事なのかもしれない。

ほくも土居くんのように、人を笑わせることが大好きだ。みんなに笑ってもらおうとうれしい気持ちになって安心する。土居くんの周りも、笑顔がいっぱいだから、きっと同じ気持ちなのだと思う。

もし、ほくの学級にも動物がいて、人間に化けていたら。背が高いい友達は、キリン。足が速い友達はチーターかな。頭がいい友達はカラスかも。ほくは、マイペースって言われるからナマケモノ。

何だか、土居くんのおかげで楽しい気分になってきた。きっとほかの動物の姿になって学校に行ったら、友達からびっくりされるだろう。でも学級のみんなは、やさしいし、全員仲良しだから、こう言ってくれると思う。

「耀月くん、元の姿にもどって、正直でいいぞ。動物にもどってもほく達は友達だ。」

ってね。土居くんも、タヌキの姿になっても周りの友達が変わらずに相手をしてくれたから、とてもうれしかっただろうな。だから、安心してタヌキにもどれたのかもしれない。

ほくは、土居くんは、正直なことをしたときか思っていなかった。だけど、本当は、みんなをたくさん笑わせて、学校中を元気にさせてあげたかったのかもしれない。そんな土居くんを見習って、最後に先生達も動物にもどっているのが、とてもおもしろかった。先生の名前や顔が何だか動物みたいだから、変だなとは考えていたけど、まさか、先生達も動物だったなんて。これからの山下小学校はもつとおもしろくなるにちがいない。

(図書名『タヌキの土居くん』)

## 〈講評〉

この本を読んで、心が温かくなったという耀月さん。「土居くんにとって、重要な問題だったのかもしれない」と、土居くんが正直を選んだ気持ちを考えたり、タヌキに戻った土居くんを「人間だった時よりもパワーアップしている」とよろこんだりしています。登場人物の気持ちを考えて寄り添ってあげることができる耀月さんの文章を読み、私もとても温かい気持ちになりました。最後まで楽しく読んでいたことが伝わってくる文章です。

## 「狐霊の檻」を読んで

盛岡白百合学園小学校 五年

佐々木 千紗

私は妖怪や怖い話が好きです。だから題の「狐霊」とはどんなものなのか、また一体何があったのが気になって読んでみることにしました。

物語は、阿豪家に閉じ込められているあぐり子という名の不思議な力を持つ子の相手をするために、両親を亡くしたばかりの千代という女の子が雇われるところから始まります。最初こそ二人の間には会話一つありませんでしたが、千代が毎日あぐり子を訪れるうちにあぐり子は次第に千代に心を許すようになり、すっかり仲良くなります。やがて、千代はずっと閉じ込められてきたあぐり子の「故郷の阿ぐり森に帰りたい」という願いを叶えてあげたいと考えるようになり、とうとう脱出計画を立てるのです。私は、そう簡単にはいかないのではと不安に思いましたが、二人はとうとう計画を実行してしまいます。死んだと見せかけるためにわざと毒を飲んだあぐり子が、なかなか目を覚まさなかつたので、私はやきもきしていましたが、千代の祈りを聞き入れたかのようにあぐり子は目を覚まします。しかし、ほっとしたのも束の間、追っ手に追いつかれてしまいます。阿豪を嫌う人に助けられるも、二人はとうとう追い詰められ、もう逃げ場はありません。ところが、どたん場であぐり子は、あんなに帰りたいと望んでいた故郷の森を自らの意思で手放して強い力を得、追っ手を追い払いました。

私は、なぜあぐり子が故郷をあきらめたのか不思議で仕方ありませんでした。せつかく二人で頑張ってきたのに、目的のはずの故郷

を捨ててしまうなんて、今までの苦勞が水の泡じゃないかと思ったのです。でも、あぐり子は故郷よりも千代を守ることを選びました。もしかしたら、あぐり子もぎりぎりまで追い詰められて初めて、自分にとって何が一番大事なのかということに気づいたのかも知れません。でも、大切な故郷と引き替えにしてでも、守りたいと願うほど、あぐり子にとって千代は故郷よりも大切な存在になっていたのでしょうか。

この本を読み終わった時、私は二人の女の子達がうらやましくなりました。大きな冒険を共に乗り越えた二人は、今や強い信頼関係で結ばれた親友ですが、私はこれほど親しい友人を持った経験がないからです。でも、いつか私も千代にとつてのあぐり子、あぐり子にとつての千代のような友人に出会える時があるかも知れません。そんな子と会えた時は、からに閉じこもらず、自分から手を差し出せたらなと思います。

(図書名「狐霊の檻」)

## 〈講評〉

題名に惹かれ、この本を手にとった千紗さん。物語の中にどんどん入り込んで、夢中になって読み進め、物語の世界を味わっていることが伝わってきます。千紗さんらしい素直な言葉で感動が表現されていて、大変素晴らしいです。

強い絆で結ばれた登場人物たちの友情。とても素敵ですね。千紗さんもいつか二人のような友達に出会えた時、またこの本を読んでみてください。



## アオアシを読んで

盛岡市立桜城小学校 六年

## 五日市 紘 登

「わずかな可能性にすべてをかけ、だれもが必死に自分をアピールしようともがいている。急造チームの中で自分を出すために必要なものは何か。この不自由なフィールドで自分は何をすべきか。そう。俺たちがこの場で見たいのは思考力なんだ。」

これはほくが読んだ小説アオアシの一・二巻の二冊をまとめた文だと考える。

主人公青井葦人は荒削りながら無限の可能性を秘めたサッカー好きな中学生。仲間や家族を大切にす優しい性格である。しかし、中三最後の大会で自分のせいで負けてしまったことを反省する。その試合を観ていた謎の男、福田達也は、試合後に走り続ける葦人にレベルの高い技術を教える。しかしその技術を葦人は覚えられなかった。そんな葦人に福田は、小銭を出して葦人のゴールシーンの説明をする。一人でサッカーをしているように見える葦人に福田は説明を続ける。しかしその説明に不満な葦人は自分なりに説明する。そしてあの点は全員の点だと説明する。それは二十二人全員の位置を完璧に把握していたのだ。その説明におどろいた男は、自分がJリーグのユース(育成)チームの監督だということを明かし、ユースチームのセレクションに葦人をさそう。八十六人の受験生の中、あきらめずに走り続け、思考力を働かせ、逆境をはねかえす反骨心で見事に合格した。

ほくが一番最初に書いた文を表した理由は「思考力」という所に注目したからだ。ほくの考える思考力とは、だれも思いつかないよ

うな事を思いつき、行動することだと思う。葦人は敵にマークされていたけどあえて、ゴールから遠い所に走ってボールをとった。このプレーは敵の考えていないことだった。だから思考力が高い人は、見ている人たちに、「すごい」と思ってもらえるのだと思う。もう一つは「反骨心」。逆境をはねかえす力だ。もうだめだと思った時や、相手の方が強くて負けている時、あきらめない姿は、自分にも味方にもパワーを与えてくれるものだ。

ほくは野球を習っている。野球は今の二つの力で成り立っているスポーツだ。思考力は同点でいい勝負の時に発揮される。満塁でバッターは打つぞと思うけどここで思考力を使って三塁ランナーをスタートさせてバッターがバントするスクイズを使うと、ホームの次に一塁に投げる間に二塁ランナーもホームに来るツーランスクイズもできる。相手の考えない所に思考力をめぐらすのもいい使い方だと思う。反骨心は、ガッツでできている。この打球は届かないからヒットにしよう、ではなく、ダイビングしてアウトにどんよくなることだ。反骨心はすぐくかっこいいと思う。

ほくは、中学生でも野球をやるけど、パワーではなく、思考力と反骨心、この二刀流で中学、高校と活やくしていきたい。

(図書名)『小説 アオアシ①②』

## 〈講評〉

野球を頑張っている紘登さん。野球にもサッカーにも共通する「思考力」と「反骨心」という二つの言葉を軸に、感想文が構成されています。菌切れのよい言葉で、自分の経験と結びつけながら感想文が綴られていて、紘登さんの感じたことや考えの深まりがよく伝わってきます。

これからも野球を続けていく上で、この本と出会ったことが、紘登さんの背中をさらに押してくれることを願います。

わたしのほうせきばこ

宮古市立山口小学校 一年

うめづ れな

まほうのほうせきばことは、人のこころをあたたかくするすてきなたからばこです。

わたしが、まほうのほうせきばこの本をえらんだきつかけは、ほうせきばこにどんなたからものをいれるのかなとおもったからです。

この本は、ゆうなちゃんのおじいちゃんがなくなつて、かなしくて学校にいけなくなるおはなしです。まほうのほうせきばこにじぶんのきもちをいれて、どんどんげんきになりました。

わたしが一ばんこころにのこつたことは、おかあさんが、ゆうなちゃんにほうせきばこをわたして、「これはまほうのほうせきばこです。」とじゅもんをとえたのがこころにのこりました。なぜかという、ほうせきばこにはものをいれるのかなとおもっていたけど、じぶんのきもちをいれるものだとおもわなかつたからです。

わたしは、ゆうなちゃんだつたらとかんがえたけど、おばあちゃんやおじいちゃんになつてしまふことは、まだよくわかりません。学校に行くのも大すきなので、いき

たかない気もちもよくわかりません。でも、この本をよみ、人にいえなくて、かなしいおもしろいことがあることがわかりました。わたしもいもうととケンカをして、おとうさんにおこられたときにうまくじぶんの気もちをいえないことがありました。それでも、これからは、すこしずつでもいいから、じぶんの気もちをいえるようになりたいとおもいました。ことばにしたほうが、こころがげんきになると、ゆうなちゃんにおしえてもらったからです。そして、かなしい気もちやくるしい気もちをもっているおともだちがいたら、はなしをきいてあげて、ほうせきばこのようなそんざいになりたいです。そして、おともだちのまほうのほうせきばこが、あたたかくきらきらがやくものになつたらいいとおもいます。

〔図書名『まほうのほうせきばこ』〕

〈講評〉

怜奈さんにとっての宝石箱は、人の心を温かくする宝箱を言うのですね。題名と一文目だけで、これほどのメッセージを表現できる怜奈さんは、それほどまでにこのお話をよく読んだのだと思います。

「ほうせきばこにはものをいれるのかなとおもっていたけど…」と、自分の考えをもちながら読み進めている点もすてきです。一つ一つの言葉や出来事の意味をよく考えるきっかけになりますね。

そして、こまっている友達にとつての「ほうせきばこのようなそんざいになりたい」と語られる文は、この感想文を読んだ人の心にスツと入り、光り輝くだろうなと感じました。

努力って、かっこいい

雫石町立七ツ森小学校 四年

岩井英介

努力って、かっこいいな。

ぼくは最初にこう思いました。この物語の登場人物が努力をたくさんして、何だか輝いてみえたからです。

楽くんと清掃美化委員会になった主人公の奈央。楽くんは、最初ナマケモノにそっくりでいつもやる気のない感じですよ。

でもそんな楽くんが家の高さ二階ぐらいの石垣に飛んでしまった奈央のテストを、簡単に登って取りにいらしてくれました。

楽くんは、ボルダリングのスクールに通っていたのです。ぼくは、スポーツをすることはとても大好きですが、ボルダリングについてあまり知らなかったので、ぼくもチャレンジしてみたいなと思いました。奈央もボルダリングをやってみたくなり、楽くんのスクールに体験に行きました。

いろいろな友達と出会って、ボルダリングにはまって練習する奈央ですが、途中うまくいかなくなると、投げ出しそうになりました。ぼくも、その気持ちがよく分かりました。苦手なことができないと努力をやめてしまうことがあったからです。

でも奈央は、ボルダリングをやめようとはしませんでした。楽くんが、登り方を教えてくれたり、はげましてくれたりしたからです。ぼくは、やさしい友達が努力の元になっているのだなと思いました。また、やさしさには、人を強くすることができるのだということにも気付きました。

ぼくも、今、金管バンドでコルネットという楽器にチャレンジし

ています。最初は、音が全然出ませんでした。でも先生や六年生から教えてもらって、少しずつ簡単な曲ができるようになってきました。そして、同じクラスのおさん、かけるさん、かいめいさんと一緒に練習して、努力をしました。もし一人だったら、努力することをやめていたかもしれません。でも、楽くんみたいな友達がぼくにもいたから、あきらめなくて続けてがんばれるのだと思います。

また、友達だけでなく、家族も努力の元なのだと思います。奈央のお父さんは、ボルダリングをやりたいという奈央の気持ちを大切に、スクールに行くことをやめなさいと反対してもです。そして、お父さんが言った言葉に感動しました。

「なんと落ちても、また立ち上がってチャレンジしていたじゃないか。それこそが才能だよ。」

ぼくは、この言葉から、できたという結果ではなく、何度もチャレンジして努力をすることが大切なのだと思います。ぼくもこれから、たくさんの壁にぶつかってもいいかもしれません。そんなとき、周りからアドバイスをもらい、あきらめずに努力を続けていくことを大切にしていきたいです。

（図書名「一撃をねらえ」）

〈講評〉

英介さんの「やさしさは、人を強くすることができる」や「何度もチャレンジして努力することが大切」という言葉がとても心に響いてきました。金管バンドで、いっしょに練習している友達が大切にしたり、難しいところは何度も挑戦したりしてコルネットの演奏を頑張っている英介さんだから、こんな力強い言葉が書けたのかなと思いました。奈央や楽と同じですね。「努力って、かっこいい」の言葉をこれからも大切にしてくださいね。

なりたい自分になるために

宮古市立田老第一小学校 六年

西川 結

将来、弁護士になりたいという夢が私にはあります。でも、この夢に向かい進んでいくためにはどのようにしていったら良いのかわからないでいました。そのとき、この本が目飛び込んできました。早速、本を手にとってページを開いてみました。

すると、「個性を発揮する」ということが書かれていました。様々なことが機械化していくことで世の中は変わっていきませんが、今も目覚ましい進歩を続ける人工知能は、確実に私達の生活環境を変えています。十年後には私も社会で働く一人となると思いますが、そのころには今ある職業の半分はなくなっているのではと、社会や国語の授業で先生が話していました。でも、どんなに人工知能が世に出てきたとしても、最終的には人にたどり着かなければならないはず。また、人工知能が持つものは個性ではなく、機械としての特徴とか特性だと思っています。個性とは人だけが持つ最大の魅力だと私は思います。どんな特性を持つ人工知能をどこにどの程度使うかを判断するのは私達人間、そこに、個人それぞれの個性をもった考えを持ち寄ることが大切なのではないかと思っています。

また、この本には私の尊敬する伊沢拓司さんのインタビューもありました。その中で、仕事のやりがいや嬉しさはどんな時に感じるかという問いに対し、彼は「自分達が発信したコンテンツで誰かに喜んでもらえた時」と答えていました。これも「個性の発揮」と言えると思いました。伊沢さんはクイズを解くことが好きだということから、それを突き詰めていって、高校生の時には史上初の個人二

連覇を達成するほどになっています。すでに多くの人達の間では「伊沢さん」クイズ王」というような図式までできていると思います。これは、クイズというものが伊沢さんの個性の一つになっていると言えると思います。でも、高校生のころの伊沢さんが、クイズといういもので仕事ができるとは考えていなかったと思いますが、それをやり続けたからこそ、クイズで会社を立ち上げることができたんだと思います。

今、私は弁護士になりたいという希望がありますが、もしかしたらこの先、その希望が変わってしまうかもしれません。でも、この本のおかげでどんな自分になろうとも、これからやるべきことが見えてきました。それは、自分の好きなことを探すということです。そのためには、学校での勉強はもちろんですが、学校以外の場所でも色々なことに挑戦し、様々な活動に積極的に参加していくことだと思いました。なぜなら、私の「好き」がどこに転がっているかわからないからです。幸い、私は勉強することが好きです。そこでこれまで以上にしっかりと取り組み、机に向かうだけを勉強と思わずに、生きること全部を学習ととらえ、これからもがんばっていききたいです。

（図書名『君らしく働くミライへ』）

〈講評〉

将来の夢に向かう一つに、この本を手にとることができた結さん。本を読み進めていくことよって、「個性」についての考えの深まりが伺えます。また本を読んで心に残ったことや実例を受けて、まとめ部分では、結さんの考えや決意が素直な言葉で表現されており、本を読んだことによる率直な感動が伝わってきました。

結さんがこれから自分の「好き」を見つけて、夢を叶えていけるように応援しています。



やさしい、やさしいハリネズミ

花巻市立八幡小学校 二年

菅原 桜子

わたしがこの本をえらんだのは、「はりねずみのノートやさん」というだいめいを見て、どんなことをしてノートやさんになったのが気になったからです。

じっさいに読んでみると、ハリネズミのツンタが一週間だけおじいさんの家にすむことになってから、うさぎのトトン、うなぎのヌール、とりのポリーさんとおおナツパスキーのナツパくんとなかよくなって、それぞれに、ノートをどけたことがこうひょうで、ノートやをひらくことになるお話でした。

私がすごいと思ったのは、ナツパくんに作ったノートです。夜が来て、夜が明けてまた夜が来る色をさいげんしているのがすてきだと思いました。ほかに、トトンがどのバラにどんなことをしたかを、わすれてこまっていたり、ポリーさんは風で土の上のグラフがきえたときにこまったかおをしていたりしたのを見て、ツンタは、その人に合うノートを作っていました。それぞれの人をちゃんと見ていて、その人のことをかんがえているのが、とてもやさしいと思いました。

私なら、ピンクでかわいい、桜色のノートがほしいです。小さなサイズでページをたくさん作って、日記にしたいです。だれかに作ってあげるなら、妹に、むらさきの、ひらがなとすうじのドリルノートをあげたいです。こんど小学校に入るけれど、ひらがなとすうじをまだぜんぶかけなくてこまっているので、たくさんれんしゅうできるといいと思うからです。

これからツンタは、しつかりものの、やさしいノートやさんになると思います、もじもししないで、じしんをもつてやってみたら、もつとうまくいくと思います。ツンタがたくさんのおきやくさんからちゅうもんをうけてどんなノートを作るのか、とても楽しみです。

（図書名『はりねずみのノート屋さん』）

#### 〈講評〉

「それぞれの人をちゃんと見ていて、その人のことを考えているのがとてもやさしい」と気付いた桜子さん。お話のなかみの中身を読み取った上で「私なら…」と自分に引き寄せている読み方できているので、心がどんと豊かになるのだからうな思っています。そんな桜子さんは来年入学する妹のいもうとのことを「ちゃんと見ていて、その人のことを考えて」いますよ。まるでツンタのようです。きっと、しつかりものの、やさしいお姉さんになると思います。

みんな同じ人間だから

滝沢市立滝沢第二小学校 三年

八幡航颯

「ハッピー・クローバー」というタイトルから、きつとハッピーなお話がつまっているのだろうと思って、この本を選びました。でも、読み始めてすぐくらいにそうではないなと感じました。本当のハッピーとは何なのかを考える話でした。

主人公のおおばの小学校に、四年生の風花ととくべつしえん学級で六年生の実里の姉妹が転校してきたところから話は始まります。おおばは、実里と初めて会った時、なんでとくべつしえん学級なんだろう、どうせついたらいいのかなと、とまどっていて、ほくもきつとそうなるよなと思いました。

実里は、ダウン症です。ほくは、ダウン症を知りませんでした。赤ちゃんがおなかの中にいるところから、身体をつくるい伝子が一本多いじょうたいでうまれてきて、成長がおそかったり疲れやすかったり、心ぞうが弱かったりすることがあるそうです。実里もそうでした、小さいころには、二回も手じゅつをしたそうです。ほくは、手じゅつをしたことがないので想ぞうしたらこわくなりました。大きな手じゅつをしてすごいなと思いました。

ある日風花は、クラスの男子が実里のことをからかったことをおこり、その子のメガネを取って投げてしまいます。風花が、「お姉ちゃんがきずつく事をいうのはいいの？お姉ちゃんの心だつてケガしたり、いたんだりしているかもしれないの。ただ、見えないだけなの。」と言ったのを読んで、ほくの心は大雨になりました。すごいりょうの雨がふって、台風のように、風がびゅおんびゅおんとふ

きあれました。きずつく言葉を言うのもほう力です。たたかれたきずは何日かするとなおるけれど、言葉のほう力は、ずっと心にのこります。だから、そんな風に考えている風花もすてきだなど思いました。ほくは時には強い言葉で真実を伝えることも大切だと気付きました。校庭のすみのクローバーがたくさん生えている所がおおばと風花のおきにのりの場所です。そこで四つ葉も三つ葉も同じクローバーなんだと話し、男子ともご解がとけて仲直りをします。ほくの心も、晴天でハッピーになりました。

ほくの考えは本を読む前とかわりました。「そうか、みんな同じクローバーなんだ。」ほくの周りにもいろいろな人がいるけれど、みんな同じ人間なんだと思いました。同じだから、しようがいがあるとかかないとか関係はありません。他にもお金があるとかないとか日本に生まれたとか外国に生まれたとかも関係ありません。見た目では分からないしうがいもあるそうです。ほくは、そんな人と話そうしてみたいと思いました。よく知るためにです。おおばが実里がそうしていたようにです。

（図書名『ハッピー・クローバー』）

〈講評〉

風花がクラスの男の子に強い言葉を言った場面や、誤解がとけて仲直りした場面を読んだ時の、航颯さんの気持ちの表現がとても素晴らしくて感心させられました。

「本当のハッピーとは何なのか」は、とても難しい問だったと思います。でも、おおばや実里の気持ちを考えながら読み、「そうか」と納得のいく答えを出すことができた航颯さんは、きつとこれからたくさんのハッピーを見つけることができるだろうと思います。

弱い気持ちに負けない強い自分に

盛岡市立山岸小学校 五年

矢羽々 愛星

この本の表紙を見て、目が離せなくなるほどに魅了されてしまいました。まるで怖い本に出てくるような、不気味な女の子の絵でした。私は、怖い話や不思議な話が好きで普段からよく読むので、この本もきつとそういう怖い話なんだろうと思いき、読んでみることにしました。でも読んでみると、想像していたのとは全く違う話でした。

この物語は、富と権力を欲しいままにする阿豪に囚われた狐霊めぐりこと、家族を失くし、狐霊を見張るために買われた少女千代の話です。千代とめぐりが出会った事で、めぐりこは逃げる勇氣をもらい、千代はめぐりが解放される事を切に願うようになりました。二人が命がけで阿豪に立ち向かうストーリーに最後までハラハラ、ドキドキしました。

私は閉じ込められた経験はありませんが、体調を崩して入院した時に、数日間ベッドの上で過ごさなければいけなかった事があります。だから、めぐりこが昔を思い出して「外の香りを鼻で感じたい」「目で景色を味わいたい」と思う気持ちが少しはわかります。私の入院中はずっと母が付き添ってくれ、遊び相手、話し相手になってくれました。母のおかげで、ベッドから出られないつらい日々も安心して過ごすことができたのだと思います。同じように、めぐりこのところに千代が毎日来て相手をしてくれたからこそ、二人の間には強い信頼関係が生まれたのだと思います。

逃げ出す計画を実行する場面では、千代が命をかけてでもめぐり

こを助きたい気持ちと、めぐりこが命をかけてでも千代を守りたい気持ちにとっても感動しました。私の両親も、千代のようにいつも命がけで私の事を世の中の悪から助け、守ってくれているのだからと思おうと、涙があふれてしまいました。

それと同時に、めぐりこを何百年も閉じ込めて富と権力を独占していた阿豪一族にとっても腹が立ちました。昔、貧しかった阿豪一族をめぐりこが助けてあげたのに、恩を仇で返すようなやり方がとても許せませんでした。

この物語から、私は何事もあきらめないで最後までやり抜くことの大切さを学びました。

私は、五歳の時から水泳を習っていて、仲間と切磋琢磨しながら練習に励んでいます。ただ、やる気スイッチがオンになる時とオフになる時があり、そのことをコーチからも指摘されています。だから、常にスイッチがオンでいられるように自分自身で意識し、気持ちをコントロールできるようにしていきたいと思っています。

気持ちをコントロールして最後までやり抜くとは、自分の弱い気持ちに負けないことだと思います。千代やめぐりこのように弱い自分を信じているし、私にもきつとできるはずですよ。私はそう自分自身を信じているし、家族や周りもそう信じてくれていると思います。二人のように、明日からも頑張っていけます。（図書名『狐霊の檻』）

#### 〈講評〉

誰でももっている自分の弱さ。愛星さんは、登場人物の姿から、諦めないこと、自分の弱い気持ちに負けないことの大切さを学んだんですね。物語を読んで感じたことと、自身の水泳での経験とを結び付けて、自分の考えを表現している構成が素晴らしいです。

愛星さんなら、どんなことにも強い気持ちで取り組んでいけると感じました。愛星さんの明日からの決意を、愛星さんの家族や周りの人たちも応援してくれています。

まほうのほうせきばこを読んで

盛岡市立高松小学校 二年

中 田 あおは

わたしは、まほうのほうせきばこを読んで、気持ちをもる大切さを学びました。

この本に出てくるユウナはおじいちゃんがなくなって、あることをきっかけに大好きな学校に行けなくなってしまいます。あることとは、クラスメイトの東くんがユウナに「おまえキモイぞ。さつさとシネ。」

と言ったことでした。このつぎの日、とう校時間になっても、体がおもくて、うごくことができなくなってしまう。それでも休むことはせずにお母さんといっしょにとう校していました。ある日、お母さんは、ユウナにまほうのほうせきばこをわたして、

「ここにきみの気持ちを入れていきます。たくさん入ると、あふれる元気とえがおがすぐにも手に入るでしょう。」

と言いました。はじめに入れた言は「むかむか」や「ちくちく」といういやな気持ちでした。それがだんだん、わくわくする言ばや、思い出すとかなしくなっていたおじいちゃんのお絵を入れるようになりました。するとユウナの心は元気になり、学校に一人で行けるようになりま

した。

この本を読んで、一番心にのこったことは、「気持ちをもる大切さ」です。わたしもおちこんだり、友だちの言ばにかなしくなったりおこったりすることがあります。この本を読む前は、そんな気もちは心の中からはやくきえればいいなと思っていました。けれど、その気もちも自分自身がわかってあげることが自分をまもることなんだと気づきました。

これからは、わたしもまほうのほうせきばこを作つて、気もちをかいたかみを入れて、自分の気もちをまもりたいです。そして、お友だちの気もちもまもつてあげられる人になりたいです。みんなも、つらいことがあったときには、がまんしない心のきもちをまほうのほうせきばこに入れてみてくださいね。

〈講 評〉

（図書名『まほうのほうせきばこ』）

「気もちをまもる大切さ」このフレーズが碧葉さんの文章には「はじめ」と「真ん中」と「おわり」に出ていますね。くり返し表現されるこのメッセージ、読み手に響きます。題名がこのフレーズならもっと多くの人に伝わることでしょう。

また、碧葉さんは、「この本を読む前は…けれど」と気づきました」とこのお話を読んで変わったことを書き記していますね。この本を読み、考え方が変わったたり心が豊かになったりした表れだなと感じ、すてきな読み方をされているなとうれしくなりました。



## 多様性を教えてくれたハッピークローバー

岩手大学教育学部附属小学校 四年

北田 啓人

いつも聞くラジオで、ダイバーシティ、多様性について話しているのを聞いたことがあります。その時はじっくりと聞かず、興味を持ちませんでした。

課題図書になっていた、この本の紹介を見ると、人の多様性を伝えたいのかなと興味がわきました。そして、僕は四つ葉のクローバーを探るのが好きで「ハッピー・クローバー！」というすてきな本の題名を見て、読んでみたくなりました。

主人公のおおばは、クラスの男子とサッカーをするのが好きで、かわいい服には興味がなく、美容師のお母さんにいつも女の子らしくしてほしいと思われています。背が高いことを男子にからかわれることもあります。友達を手伝ったり、友達の考えに共感できる優しい四年生の女の子です。

おおばの生活を見ている中で、多様性のことが分かる部分がいくつかあります。

近所にひっこしてきた六年生の実里ちゃんは、ダウン症で、ダウン症のことを知らないおおばは、どう接していいか分からず、一緒に遊ぶのを少しめんどくさいと思っていました。実里ちゃんの家で、実里ちゃんの妹の風花ちゃんとパンを作る機会があり、きんちょうずしていたけれど、一緒に作業していると、実里ちゃんのこと少しづつ理解できて、きんちょうずなくてもいいと気付きました。僕は少し苦手な子がいたけれど、サッカーと一緒にしていると、苦手だったのがうそだったように仲良くなったので、似ているなと思います。

た。

おおばは、あこがれの女子サッカー選手と同じ髪型にしてほしいと美容師のお母さんに頼みます。おおばの髪を切ったお母さんは、おおばを見て、よく似合うことに気付きました。僕は、考え方はたくさんあって、一つだけだと決めつけてはいけなと思います。

この本の中で、僕が好きな文があります。

「遠くから見ると、全部同じように見えるクローバー。でも近くでよく見ると、大きい、小さい、色が濃い、うすい、少しづつちがつてる。でも、どれもピンと空に向かって背をのびしているように見える。わたしたちも……そうなのかも。」という文です。

おおばは、クローバーを見てそう考えました。

僕は、この本を読んで、色々な人がいてその違いを理解すること、人はそれぞれ違っていてもいいということが多様性なのかなと少し分かって来ました。

これからの生活で、クラスメイトと接するとき、考えを一つだけだと決めつけず、色々な考えを持ちながら接したいです。また、人はそれぞれ違っていてもいいということを考えながら生活していきたいです。そして、これからも多様性のことを考えていきたいと思いました。

（図書名「ハッピー・クローバー！」）

### 〈講評〉

「多様性」という言葉は、近頃、よく目や耳に入ってきましたね。何となく心に引っかかっていたことをちゃんと知ろうとして、本を手にする啓人さんが素晴らしいと思いました。

「人はそれぞれ違っていい」という自分なりの答えを見つけたことも素晴らしいと思いましたが、啓人さんがおおばの気持ちを分かっていたり、自分にも似ているところがあると気付いたりしていることが、みんなをハッピーにする本当の力だと感じました。

平和な明日をつくる（他者理解）

宮古市立田老第一小学校 六年

吉 水 詩 織

「ゾンビも人間も同じだよ。楽しければ笑うし、悲しければ泣く。ひとりひとりゾンビの性格がちがうように、冷たい人間もいれればやさしい人間もいる。あたしたちに心があるように、人間にも心があるんだ。」

これはノノがゾンビの仲間達に向けて言った言葉だ、私はこの言葉から、今、この世界の中で起こる国同士の戦争のことを思った。

これまでの私が「ゾンビ」ということばに対するイメージは、感情がなく、言葉もしゃべることは出来なくて、人を見たら無差別におそいかかるひどい生き物というものだ。それはショウ達も似たイメージを持っていたし、また、ゾンビであるノノ達も人間に対して同様のものを持っていた。これをそのまま、今の戦争をしている国同士にも当てはめることができる気がする。あの国の生まれだから、あの国で育った人だから。そんな大きすぎる枠で囲んだみたいな捉え方をして、互いを憎み合うような構図ができていると感じる。それでもまだ、互いの関係に距離があり、背を向け合うような間柄なら、心に冷たい風は吹くけれど戦争にはならない。

確かに、地域的だったり国だったり影響するような特有の人はあるかもしれない。ときにそれは恐怖心や疑心暗鬼を生むものになることはある。でも、それは相手に関してきちんとした理解をしていないことが原因だと私は思う。ノノは人間の世界に飛び込んで正しく人間を理解しようとした。初めは興味本位だったと思う。また、ゾンビの間で言われている人間の姿が本当なのか疑いをもって

いたことも彼女をショウのもとへ行かせた理由になつていとも思いう。そうやって出会った二人は、人間とかゾンビという枠の全くない状態での交流をした。しかも、二人はこの街では新参者だったということも意気投合を加速させた私を感じた。だからこそ、しっかりと他者理解が出来たのだと思うし、人間とゾンビの橋渡しとなる役割が果たせたのだと思う。

リリーの言葉が胸に響く。「力に力で対抗するのではなく、言葉を交わすのです」と。暴力によつては何も解決しないということ、暴力は悲しみ、憎しみといった負の感情しか生まない。そしてショウがそうだったように、負の感情に心が支配されると、自分のことしか考えられなくなってしまう。こういうことは普段の私達の生活の中に身近に転がっている。ちよつとしたすれ違いや誤解が、相手をまともに見なくなるきかけになることがある。自分かわいさからくる感情だと思いが、誰しももつものだと思う。だから、そのことを私は常に自覚しながら前に進みたい。そして、いまだに続くあの国の戦争が一刻も早く終わることを願いながら、そして悲しみや憎しみの感情が生まれることが無くなりますよう祈りながら、この本を閉じようと思う。

（図書名『リトル・ゾンビガール』）

〈講評〉

物語の世界に心を寄せながら読んでみると、そこから考えたことが上手く散りばめられて文章が展開されています。伝えたいことが詩織さんの力強い言葉で書かれてあり、大変惹きつけられました。

誰しもが抱える負の感情や少しのすれ違いから起きる誤解。他者理解は難しいけれど、枠に捉われず歩み寄っていくことの大切さを、この物語を読み込んだ詩織さんが教えてくれました。

## 審査を終えて

第七十八回冬休み良書読書感想文コンクールには、三十四校、九十八人の児童から応募がありました。今年度の夏のコンクールに比べると、約三十作品ほど増えました。よい本と出会い、じっくり感想をまとめることができた冬休みでした。

応募作品のよかった点や課題点について学団ごとに報告します。

### 【低学年】

それぞれの作品によさがあり、とても難しい審査でした。物語の内容の中心に沿って感想をもっている子が多く、丁寧に読書に取り組んだ様子が伝わってきました。自分の生活体験と本の内容をつなげて感想を深めている作品も多く見られました。また、短い文でリズムよく自分の思いを表現する工夫もありました。

課題点は、原稿用紙の最後の行まで使って書き上げることです。また、規定を守って応募することです。行数など、コンクールによって規定が違っているので確認が必要です。

### 【中学年】

中学年は、決められた賞では足りないくらい素晴らしい作品が多く寄せられました。同じ本でも一人一人の感じ方に違いがあり、内面の成長が感じられる作品で読み応えがありました。表現で目立ったのは、書き出しの工夫です。一文目をどう書き始めるかで文章全体の印象が違ってきます。

課題点は、言葉の使い方です。感じた思いを具体的に表すために、どんな言葉が自分の思いにぴったり当てはまるのか考えることが大切です。学校で学習している「感想を表す言葉」もいかしてみましよう。

### 【高学年】

高学年の作品は全体的に文章が整っていました。自分の考え

を表すために文章をどのように構成するか、書く前の構想の段階が充実していたのだと思われれます。また、これからの生き方や考え方に影響を受けたことが書かれ、読書によって成長している様子が伝わってくる作品もありました。

今後は、本を読んで得られたことや自分の考えをさらに掘り起こしたり深めたりしながら書いてほしいと思います。そのために、経験や日頃から考えていることに関わらせて感想をもつことが大切です。

これらの報告をこれからの感想文の参考にしてほしいと思います。さらに、次のようなことも意識できればよいと思います。

○書くことの中心を決める。

特に心を打たれたところを確かめます。ストーリーの展開、登場人物の行動や性格、考え方などそれぞれに強く感じたことが書くことの中心になります。

○内容や構成を工夫する。

いつも同じではなく、本の内容や感想に合わせて工夫します。

・特に感動したところを取り出して書く。

・登場人物の行動に対する感想をあらすじの中にふくめて書く。

・登場人物の性格や考え方を自分と比べながら書く。

○感想が生まれた理由になることを書く。

○それぞれの感じ方がより伝わってきます。

○自分の経験や考え方と比べながら書く。

「自分と似ているところ、違うところはないか。」「自分だったら。」と自分と比べることで、考えが深まります。

このようなことに気を付ければ、一人一人の思いや感じたことがより伝わると思います。

次回のコンクールも、皆さんのワクワクや感動が詰まった感想文を楽しみにしています。

審査員 田代 五月



たくさんのお<sup>お</sup>ぼ<sup>ぼ</sup>のご応募、ありがとう。  
次も、お友だちをさそってトライしてね。



## 次回予告

### 令和5年度夏休み良書推薦運動 第79回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会  
・(一社)岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2023年「夏休み良書推薦運動」  
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (5月下旬案内開始予定)  
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内  
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内  
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文  
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。  
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点 (県下小学校児童)  
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。  
(他のコンクールとの二重応募は認めません)  
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)  
・応募作品の著作権、著作権は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。  
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。  
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2023年9月1日(金) 当日消印有効
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5  
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内  
「読書感想文コンクール係」  
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 9 賞 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞・岩手県学校図書館協議会長賞・  
岩手県PTA連合会長賞・優秀賞・入選・佳作・努力賞・  
学校賞・学級賞



